

福島を舞台にした文学

福島県内の各地を舞台にした文学作品、福島県にゆかりある人物をモデルとした作品を地方別に紹介します。会津地方、中通り、浜通りと、地方ごとに文化・歴史・気候それぞれ特徴をもっています。文学を通じて、各地方の持つ風土を知るとともに、それぞれに故郷への郷愁を感じることができるのではないのでしょうか。また、震災後の福島を題材にした小説も登場しています。

※公開図書室に出ているものを中心に掲載いたしました、「書」と付いている資料は書庫の資料ですので、ご覧になりたい場合は貸出・登録カウンターの職員にお申し付けください。

会津地方ゆかりの文学

福島県文学全集 第1期(全6巻)・第2期(全6巻)	澤 正宏／編	郷土出版社	2001～ 2002	L918.6/F4/1-1～1- 6.2-1～2-6
『蒲生氏郷』幸田露伴著(1期2巻)、『水芭蕉』真船裕著(尾瀬が舞台)(1期4巻)、 『小磐梯』井上靖著(磐梯山噴火を題材)(1期5巻)、 『悲運の城』田宮虎彦著(戊辰戦争を題材)(1期4巻)、『魄』綱淵謙錠著(1期6巻)、 『磐梯高原の熊』由起しげ子著(2期2巻)ほか				
乳と蜜の流るゝ郷	賀川 豊彦／著	家の光協会	1968	L913.6/K32/1
北塩原村出身の主人公を通じて、当時の農民の真情と農村の現状を描いた作品。昭和10年(1935)初出。				
姿三四郎 大衆文学館 全3巻	富田 常雄／著	講談社	1996	L913.6/T25/1-1～ 1-3
会津若松市出身の柔道家で講道館四天王の一人、西郷四郎をモデルにした小説。昭和17年(1942)初出。講談社刊は、天の巻、地の巻、人の巻。				
書 落城・霧の中 他4篇 岩波文庫	田宮 虎彦／著	岩波書店	1957	X913.6/T8
「落城」は、明治維新に際し、会津藩をモデルにした黒菅藩を舞台とする歴史小説。昭和24年(1949)初出。「霧の中」は、同時期の会津武士を主人公にしている短編小説。				
二等兵物語 全5巻	梁取 三義／著	彩光社	1970～ 1971	913.6/Y32/2-1～2-5
著者は只見町出身。会津若松の連隊に入営し、敗戦までを描いた戦争小説。昭和28年(1953)初出。				
黄金峡	城山 三郎／著	中央公論社	1979	L913.6/S17/2
只見川のダムの買収交渉がモデルと言われている。昭和34年(1959)初出。				
ダム・サイト	小山 いと子／著	光書房	1959	L913.6/K24/1
只見町の田子倉ダムを舞台にした小説。ダム建設がもたらした悲劇を描く。				
書 会津 鶴ヶ城物語	会津若松史出版会／編	会津若松史出版会	1967	L913.6/A3/1
『名族芦名氏』南條範夫著、『伊達政宗と黒川城』村上元三著、ほか4作品を収録。				
けんかえれじい 全2巻	鈴木 隆／著	理論社	1966	L913.6/S33/2-1～2- 2
戦前、岡山から喜多方中学へ転校し、喧嘩に明けくれた人生を描いた青春小説。第2部は軍隊編。				
王城の護衛者	司馬 遼太郎／著	講談社	1968	L913.6/S19/1
幕末の会津藩主・松平容保を主人公とした作品。				
峠 前篇・後篇	司馬 遼太郎／著	新潮社	1968	913.6/S50/18-1～ 18-2
戊辰戦争時に、塩沢村(現只見町)で息をひきとった河井継之助を主人公にした小説。				
まぼろしの橋	三浦 哲郎／著	文芸春秋	1972	L913.6/M13/2
橋梁会社の土木技師が主人公、只見川が流れる柳津町が描かれている長編恋愛小説。				
遠き落日 上・下	渡辺 淳一／著	角川書店	1979	L913.6/W5/1-1～1-2
野口英世の半生を描いた伝記小説。吉川英治文学賞受賞作。				

おけい 上・下	早乙女 貢／著	文芸春秋	1981	L289/O15/7-1~7-2
明治2年に初の女性移民として、アメリカに渡った少女の一生を描いたもの。昭和49年(1974)初出。				
会津おんな戦記	福本 武久／著	筑摩書房	1983	L913.6/F7/2
山本(新島)八重を主人公にした小説。続編は『新島襄とその妻』、『小説・新島八重』。				
会津士魂 全13巻・続会津士魂 全8巻	早乙女 貢／著	文芸春秋	1985~2001	L913.6/S26/1-1~1-21
戊辰戦争を会津藩側から描いた長編小説。				
流星雨	津村 節子／著	岩波書店	1990	L913.6/T17/1
戊辰戦争前後の会津、斗南での生活を描いた小説。女流文学賞受賞。				
鬼官兵衛烈風録	中村 彰彦／著	新人物往来社	1991	L913.6/N6/1
会津を率い戊辰戦争を戦った会津藩士・佐川官兵衛を主人公にした小説。				
名君の碑 保科正之の生涯	中村 彰彦／著	文藝春秋	1998	L913.6/N6/16
三代将軍家光の異母兄として生まれ、会津藩主となった・保科正之の生涯。				
山嵐	今野 敏／著	集英社	2000	L913.6/K41/2
講道館の西郷四郎をモデルとした小説。				
幕末銃姫伝 京の風会津の花	藤本 ひとみ／著	中央公論新社	2010	L913.6/F5/1
会津藩士の娘、山本(新島)八重を主人公にした小説。続編は、『維新銃姫伝会津の桜 京都の紅葉』。				
へその曲げ方 西郷頼母会津藩始末	ジェームス三木／著	学研パブリッシング	2012	L913.6/J5/1
会津藩家老、西郷頼母を主人公にして戊辰戦争を描く。				
レオン氏郷	安部 龍太郎／著	PHP研究所	2012	L913.6/A21/1
戦国時代、会津の鶴ヶ城を築いた蒲生氏郷の生涯を描いた小説。				

中通り地方ゆかりの文学

福島県文学全集 第1期(全6巻)・第2期(全6巻)	澤 正宏／編	郷土出版社	2001~2002	L918.6/F4/1-1~1-6,2-1~2-6
『山椒大夫』森鷗外著(信夫郡)(1期2巻)、 『流行火事』久米正雄著(郡山市桑野付近が舞台)(1期2巻)、 『禰宜様宮田』宮本百合子著(飯坂温泉~穴原温泉が舞台)(1期2巻)、 『お三輪』水野仙子著(磐梯熱海から猪苗代が舞台)(1期2巻)、 『吾妻の白猿神』戸川幸夫著(吾妻山に暮らす木こりと猿の物語)(1期5巻)、 『はてしらずの記』正岡子規著(白河~福島)の紀行文(2期1巻)、 『勢至堂峠』柳田国男著(2期1巻)、『飯坂ゆき』泉鏡花著((2期1巻)ほか				
貧しき人々の群 ほか	宮本 百合子／著	新日本出版社	1994	L913.6/M8/2
安積開拓の中心開成山を舞台とした農村を描いた小説。大正5年(1916)初出。				
歴史 二本松藩士の維新	榊山 潤／著	富士見書房	1990	L913.6/S7/3
戊辰戦争の激動期、二本松の霞ヶ城の落城を描いた作品。新潮社文芸賞受賞作。昭和13年(1938)初出。				
碑・テニヤンの末日 新潮文庫	中山 義秀／著	新潮社	1993	L913.6/N7/10
「碑」は幕末の長沼藩(現須賀川市)を舞台にした小説。著者は、大信村(現白河市)出身。昭和14年(1939)初出。				
智恵子抄 詩集	高村 光太郎／著	龍星閣	1991	L911.5/T18/3
高村光太郎が妻智恵子(二本松市安達町出身)を想って綴った詩集。昭和16年(1941)初出。				
大地の朝	諏訪 三郎／著	西田書店	1982	L913.6/S21/1
著者は郡山市湖南町出身。郡山市田村町を舞台とし、戦前の農村社会を描いた小説。昭和16年(1941)初出。				

和紙 東野辺薫作品集	東野辺 薫／著	五月書房	1971	L913.6/T2/3
安達町(現二本松市)の上川崎の紙漉き集落が舞台。著者は、二本松町(現二本松市)出身。第18回芥川賞受賞作。昭和18年(1943)初出。				
橋のある風景 冬芽新集	斎藤 利雄／著	冬芽書房	1950	L913.6/S10/1
飯野町(現福島市)にある橋がモデル。阿武隈山地に展開される人間模様を描く小説。著者は飯野町出身。				
松川裁判 上・中・下	広津 和郎／著	中央公論社	1976	L327.8/H1/7-1~7-3
昭和24年の松川事件を題材にし、被告たちの潔白を主張した評論。昭和29年(1954)初出。				
小説智恵子抄 人間叢書	佐藤 春夫／著	日本図書センター	2000	L913.6/S31/2
詩集「智恵子抄」をもとに、光太郎と智恵子を描いた物語。昭和32年(1957)初出。				
女坂 新潮文庫	円地 文子／著	新潮社	1993	L913.6/E2/1
明治初期の福島市が登場。福島県の大書記官の妻の半生を描く。昭和32年(1957)初出。				
書 ある女の遠景	舟橋 聖一／著	講談社	1963	L913.6/F11/1
「猫と泉の遠景」は石川町の猫啼温泉が舞台になっている短編。				
書 繭となった女	小林 美代子／著	講談社	1972	L913.6/K6/1
著者の自伝的小説。少女時代を過ごした保原町(現伊達市)での生活も描かれている。				
書 あなない盛衰記	佐藤 愛子／著	光文社	1975	L913.6/S9/2
二本松市を舞台とした小説。新興宗教に振り回された純朴な人々の哀歓をコミカルに描いている。				
書 天才画の女 新潮文庫	松本 清張／著	新潮社	1982	L913.6/M9/2
福島県の架空の町・真野町を舞台としている。石川町と三春町がモデルとなっている長編サスペンス小説。昭和53年(1978)初出。				
子守学校 文学の館	菅生 浩／作	ポプラ社	1980	L913.8/S2/2
著者は郡山市出身。郡山の陣屋跡にあった子守学校を舞台にした児童文学。『子守学校の女先生』、『さいなら子守学校』の三部作。路傍の石文学賞を受賞。				
大世紀末サーカス	安岡 章太郎／著	朝日新聞社	1984	L913.6/Y10/1
飯野町生まれの高野広八が、明治維新の頃、曲芸師を連れてアメリカ・ヨーロッパを巡業した物語。				
摘出	松浪 和夫／著	講談社	1997	L913.6/M17
脳死、臓器移植を題材にした医学サスペンス小説。福島市が舞台。				
渴いた夏	柴田 哲孝／著	祥伝社	2008	L913.6/S50/1
西郷村、白河市を舞台としたサスペンス小説。白河市在住の私立探偵・神山健介が主人公のシリーズもの。『早春の化石』(2010)、『冬蛾』(2011)、『秋霧の街』(2012)、『漂流者たち』(2013)。				
刑事魂	松浪 和夫／著	講談社	2011	L913.6/M17/3
福島県警をモデルにした警察小説。福島市内を詳細に描いている。著者は福島市出身。				
時限の幻	吉川 永青／著	幻冬舎	2012	L913.6/Y22/1
蘆名家家老金上盛備と伊達政宗の攻防、摺上原の戦いを描いた歴史小説。				
青春レボリューション	大鳥 研二／著	幻冬舎ルネッサンス	2012	L913.6/O17/1
1970年、福島市にある高校の新聞部を舞台に、17歳の主人公を描く青春小説。著者は福島市出身。				
シンクロシティ 法医昆虫学捜査官	川瀬 七緒／著	講談社	2013	L913.6/K66/1
ミステリー小説。後半の舞台は白河市近辺。著者は白河市出身、平成23年に『よろずのことに気をつけよ』で江戸川乱歩賞受賞した。				
夕焼け小焼けで陽が昇る 講談社文庫	小泉 武夫／[著]	講談社	2013	L913.6/K65/1
昭和30年代の福島・阿武隈山地を舞台に描く自伝的小説。著者は小野町出身。				
でれすけ忍者 光文社時代小説文庫	幡 大介／著	光文社	2013	L913.6/B4/1
陸奥国白河藩に仕える忍者の家の養子が主人公の長編時代小説。				

浜通り地方ゆかりの文学

	福島県文学全集 第1期(全6巻)・第2期(全6巻)	澤 正宏／編	郷土出版社	2001～ 2002	L918.6/F4/1-1～1- 6.2-1～2-6
	『いなかぶり』島尾敏雄著(旧小高町を舞台)(1期4巻)、 『祖父』志賀直哉著(幕末維新期の相馬家のを支えた家臣)(1期4巻)、 『無言旅行』埴谷雄高著(相馬野馬追を題材にした随筆)(2期3巻)ほか				
	詩集 移住民 復刻版	猪狩 満直／著	鏝出版	2000	L911.5/14/7-1
	北海道阿寒へ開拓者として移住し、そこでの生活を綴った詩集。著者はいわき市好間町出身。昭和4年(1929)初出。				
	蛙 定本 愛蔵版詩集シリーズ	草野 心平／著	日本図書センター	2000	L911.5/K10/33
	蛙の詩人草野心平が、自身の詩から選んで収録した詩集。いわき市小川町出身。昭和23年(1948)初出。				
書	たった二人の工場から	真尾 悦子／著	未来社	1984	L916/M1/2
	昭和30年代始め、平市(現いわき市)で著者と夫のふたりで出版社を始め、『月刊いわき』を刊行した。夫妻の文学への情熱をめぐる悪戦苦闘の手記。昭和34年(1959)初出。				
	人民は弱し官吏は強し	星 新一／著	新潮社	1978	L289/H15/5
	いわき市出身の実業家である父・星一の伝記。明治末から大正期、製薬会社を創立し、官僚と妨害されながらも誠実に生きる父の姿を描いた作品。昭和42年(1967)初出。				
	湊をたらした神	吉野 せい／著	文芸春秋	1984	L914.6/Y1/4
	詩人の夫(三野混沌)と共に開拓農民として、たくましく生きた農婦の身辺雑記。著者は小名浜町(現いわき市)出身。大宅壮一ノンフィクション賞、田村俊子賞を受賞した作品。昭和49年(1974)初出。				
書	天地静大 山本周五郎全集 第12巻	山本 周五郎／著	新潮社	1982	918.6/Y2/2-12
	幕末の相馬「中邑藩」を舞台に、幕末を生きる若者たちの希望と葛藤を描いた小説。昭和36年(1961)初出。				
	慶長・元和大津波奥州相馬戦記	近衛 龍春／著	毎日新聞社	2012	L913.6/K60/2
	相馬家の戦国末期から徳川期に至るまでを綴った小説。相馬義胤を中心に描かれている。				
	超高速!参勤交代 らくらく本	土橋 章宏／著	講談社	2013	L913.6/D5/1
	江戸時代、磐城国の小藩・湯長谷藩(いわき市湯本)の参勤交代をめぐる時代小説。2011年に脚本の城戸賞受賞。2014年に映画化。				

東日本大震災・原発事故を題材にした小説

	馬たちよ、それでも光は無垢で	古川 日出男／著	新潮社	2011	LS913.6/F6/1
	鋼の綻び	相場 英雄／著	徳間書店	2012	LS913.6/A22/1
	阿武隈共和国独立宣言	村雲 司／著	現代書館	2012	LS913.6/M29/1
	光の山	玄侑 宗久／著	新潮社	2013	LS913.6/G4/1
	漂流者たち	柴田 哲孝／著	祥伝社	2013	LS913.6/S50/3
	祈りの証明 3.11の奇跡	森村 誠一／著	KADOKAWA	2014	913.6/モト142/

代表的な福島の文学をまとめたもの

	ふくしまの文学 I～III(全3巻)	福島民報社／編	福島民報社	1985	L918.6/F3/1-1～1-3
	ふるさと文学館 第8巻 福島	木原 直彦／[ほか]編	ぎょうせい	1994	L918.6/K7/1
書	ふくしま文学のふる里100選 第2版	福島県教育委員会文化課／編	福島県教育委員会文化課	1995	L910.3/F1/3
	福島県文学全集 第1期(全6巻)・第2期(全6巻)	澤 正宏／編	郷土出版社	2001～ 2002	L918.6/F4/1-1～1- 6.2-1～2-6
	ふるさと文学さんぽ 福島	澤 正宏／監修	大和書房	2012	L918.6/S4/3
	福島の文学 11人の作家 講談社文芸文庫	講談社文芸文庫／編	講談社	2014	L918.6/S6/1

参考資料:『ふくしま文学のふる里100選 第2版』福島県教育委員会文化課／編・発行 1995